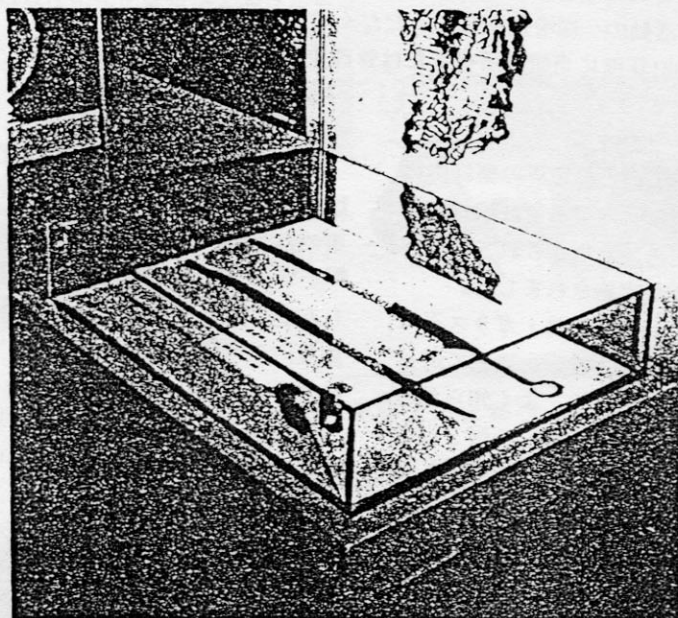


博物館だより



▲素環頭内反太刀・内反太刀
(長野市指定文化財)

昭和42年3月に市内若穂保科の和田東山より、大きな石を引きおろすため、沢筋の細い山道を削った時に出土したのがこの2口の太刀です。出土後、信濃美術館に預けられ、昭和58年に当館に移管、その後保存処理を施してこの4月より常設展示室において公開しました。

和田東山は2年前に新しい林道が完成し、当時の状況は一変してしまいましたが、現地踏査してみると、その地点（標高400m余り）の林道の下段に古墳らしき膨らみと、石積み状のものが残っていました。詳細な形や大きさなどは、測量調査を行えば更に明確になると思われませんが、恐らくこの2口の太刀は古墳の石室内に副葬されていたものと推定されます。

素環頭内反太刀は全長75.3cm、刀身の幅2.8cm、素環の径5.0cmで柄頭に環状の装飾をともづくり

にしたものです。刀身は鑄のつかないひらづくり（断面が二等辺三角形を呈す）で、内反りになっています。また環状の端がこみ（柄の中に入る部分）に接続していないのもこの太刀の特徴です。内反太刀は全長72cm、刀身の幅2.5cmで、こみに2つの目釘穴があげられ、全体的に素環頭太刀よりも若干細めの作りになっています。

長野県内では諏訪市のフネ古墳より、素環頭太刀が1口出土しています。善光寺平においては、最近の大室古墳群、地附山古墳群などの調査により積石塚の年代が5世紀代までさかのぼって考えられるようになり、この内反太刀出土の古墳もそうした古墳群などとの関係の中で、古墳文化成立期の事情を物語るものとして、改めてその意味が問われることになるでしょう。

(寄託者 依田ノブ・依田修一)

企画展

昭和61年度 新収蔵資料展

4.19 → 5.24

新収蔵資料展は、収集された新資料を年度ごとに紹介し、収集に協力して下さった方々に感謝の意を表するとともに、博物館活動の一端を理解していただくことを目的としています。

今回の展示では、昭和61年度に当館が所有または管理することになった新収蔵資料37件 550点の中から約200点を展示致します。

土口将軍塚古墳

松代町岩野と、更埴市土口との境界の薬師山に所在し、全長約70mを測る県内でも有数規模の前方後円墳です。長野県史跡にも指定されており、5年間にわたり発掘調査が実施されました。

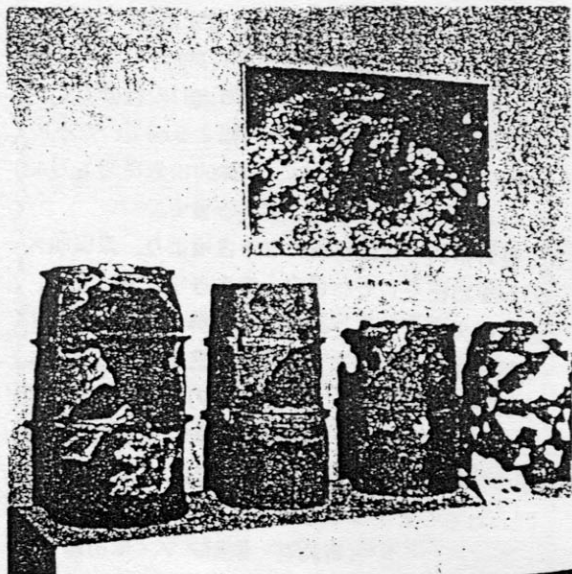
調査の結果、埋葬施設から鉄製品・ガラス玉などの副葬品が発見されたほか、墳丘上に立て並べられた埴輪列が発掘されています。よく知られる「人物埴輪」が一般的となる以前の、西暦5世紀に構築された古墳であるため、出土した埴輪は「円筒埴輪」が主体となっていますが、古墳の威容な外観を更に際立たせる目的で、墳丘上に隙間なく垣根のようにめぐらされていたことが確認されました。使用された埴輪の本数は、推定約700個体と考えられ、往時の古墳の壮麗さが偲ばれるとともに、古墳造営に際しての大規模な労働力の投入がうかがわれます。

地附山古墳群

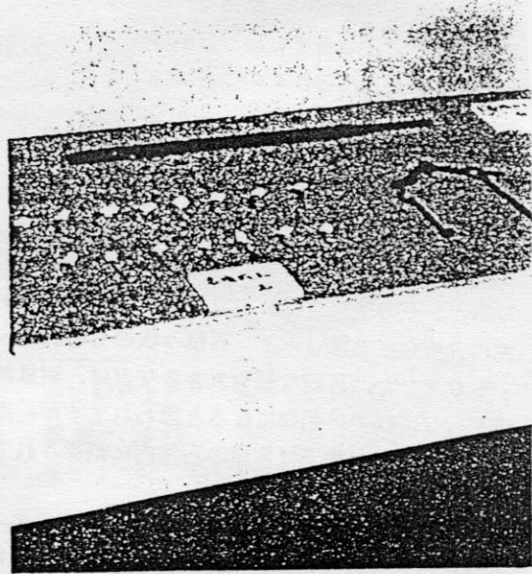
山頂にある前方後円墳を中心として、地附山山腹に築かれた古墳群のうち、地滑り災害の復旧工事にもとない5基の円墳が発掘調査されました。

いずれの古墳も盗掘により損壊を受けてはいましたが、持ち去られることなく残されていた埋葬施設内の副葬品や、墓前に供えられた土器などが発見されるなど、大きな成果が上げられました。

副葬品として埋葬された剣や馬具などの鉄製品は、ほとんど腐食しておらず、保存が極めて良好な状態にあります。中でも、馬具は日本に乗馬の技術が伝えられた西暦5世紀代の製品であり、極めて貴重な発見となりました。また、出土した土器のうち、「須恵器」と呼ばれる硬質の焼物は、当時入手しにくい高級な製品であり、古墳に葬られた人物の財力のほどが示されています。



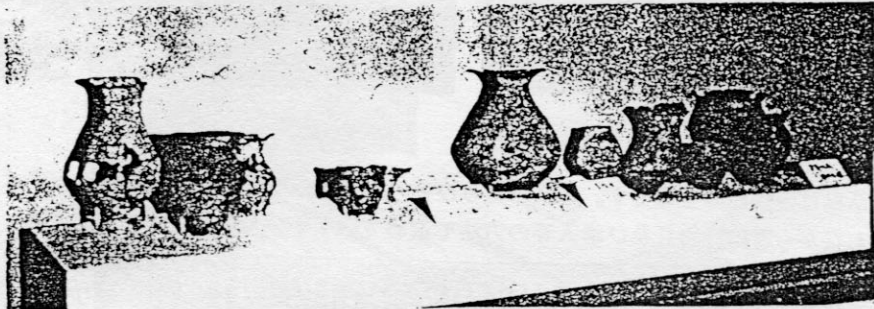
▲ 土口将軍塚古墳出土の埴輪



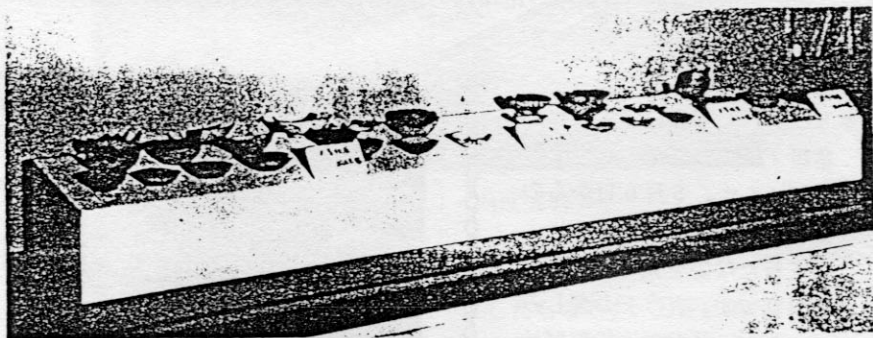
▲ 地附山古墳群出土の鉄剣・轡・玉

県立吉田高校敷地内に所在し、体育館建設にともない発掘調査されました。弥生時代後期土器型式名として知られる「吉田式」壺・甕・高坏などの土器が多数出土しました。同校のグラウンドからも6軒の住居跡が発見されており、当時としては規模の大きな集落であったことがわかります。

調査の結果、10軒の住居跡が発見され、「吉田式」壺・甕・高坏などの土器が多数出土しました。同校のグラウンドからも6軒の住居跡が発見されており、当時としては規模の大きな集落であったことがわかります。



▲吉田高校遺跡出土の土器



▲三輪遺跡出土の土器

昭和61年度に寄贈していただいた33件約500点に及ぶ民俗・歴史資料のうち今回は、近世以降の長野盆地における庶民生活に関する民具を中心に展示しています。

ここでは特に注目すべきものとして2点を紹介致します。

鍛冶屋道具一括資料

長野市若穂保科で昭和49年まで実際に使用されていた鍛冶道具を一括で寄贈していただいたものです。鍛冶場にはカナシキとカナヅチという伝統的な道具の他に、ベルトハンマーなど電気モーターの動力を使用した近代的な機械まで併存しています。また、お不動さんが職人の神様として鍛冶場に祀られ、そのまわりには新年の仕事始めに打たれる模造剣が打ちつけられていました。

長野電鉄本郷駅の東側で、宅地造成にともない発掘調査されました。

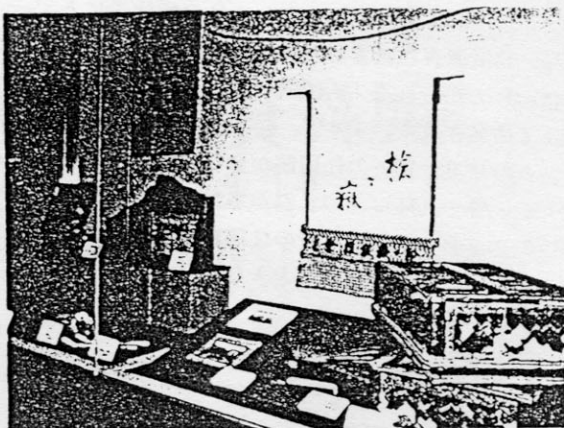
三輪遺跡は、三輪神社の周辺に広い範囲で分布するもので、今回の調査地点では、平安時代を中心とする時期の住居跡が5軒発見されました。弥生時代からの古い歴史をもつ三輪遺跡のなかでも比較的新しい時期の集落跡といえます。

力士「槍ヶ嶽」の相撲関係資料

松代町出身の力士「槍ヶ嶽」の遺品の数々です。槍ヶ嶽は明治29年に生まれ、大正15年にわずか31才で台湾にて戦死しています。幕内上位にまで昇進していたと伝えられています。その遺品の中には、土俵入りのときの化粧まわしや梓弓のほか、槍ヶ嶽活躍当時の写真も含まれ、当時の社会風俗の一端をその写真からかいま見ることができます。



▲ 鍛冶屋道具資料



▲ 相撲関係資料

資料の収集活動は博物館の生命です。市民ひとりひとりがつくる博物館を目指して、収集は、所有者の意向を尊重しながら寄贈、寄託及び購入等の方法で進めています。おかげさまで当館に寄せられました資料も3,000点を越えましたが今後も、資料の提供・所在等

資料の収集に御協力を

の情報をお待ちしております。特に、収集調査の最も遅れて

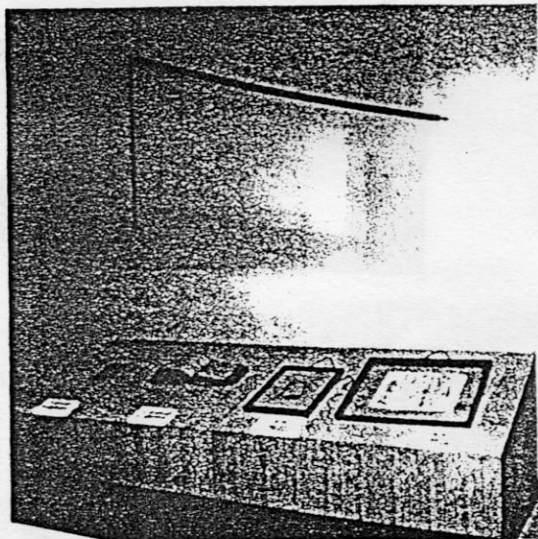
いる儀礼・信仰伝承にかかわる民俗資料及び紀年銘の記された民具を中心に収集調査しようと計画しておりますので、御一報いただければ幸いです。

博物館あ・ら・か・る・と

◆プラネタリウム 5月31日まで春の番組「星空のマリオ」を投影しています。6月6日からの夏の番組は、ボイジャーによって新たな姿を見せた天王星のお話です。どうぞお楽しみに。なお、4月から投影開始時刻が変わっていますので御注意下さい。午前10:00・11:30
午後 1:30・3:00

◆プラネタリウムコンサート 星空と音楽と題して、6月13日にプラネタリウムコンサートを開きます。申し込み、詳細等は長野市報に掲載されます。

◆教室・講座 当館では、秋に「森の文化」をテーマに特別展を企画しています。その一環として、森にかかわる各種教室講座を春・夏・秋に予定しています。ふるって御参加下さい。



▲ 番所用具・書額他

博物館だより No 7 1987. 5
編集・発行 長野市立博物館
〒381-22 長野市小島町田八幡原史跡公園内
Tel (0262) 84-9011